

令和7年2月20日

浜田市議会議長 笹田 卓 様

議員名 肥後 孝俊

研 修 受 講 報 告 書

下記のとおり研修を受講したので報告します。

記

1. 研修名 地方議員のための自治体財政基礎講座
予算書チェックではまちづくりができない理由
2. 受講の目的（市政との関連など）
福岡市における行財政改革と実例をもとに学び、本市に取り入れられる仕組みや考え方を学ぶため。
3. 期間（移動日を含む）

令和7年2月6日(木)

4. 経費

経費内訳	航空機代 広島⇔羽田空港往復	14,620円
	研修参加費	8,800円
	合計	23,420円

5. 研修のポイント・議員活動や市政への反映など

自治体財政について知っているようで知らない。予算書を読み、質疑を通じてチェック機能を果たしているつもりになっていないか。また一方、行政は行財政改革と称して職員数や公共施設を減らすことに取り組んでいるが、自治体の財政を理解し、目指すべきまちづくりへの予算配分を学び実践することで、新しい視点が生まれ、まちづくりがより良い方向へと変わっていくのではと感じた。

6. 研修内容

（詳細は別紙のとおり）



議員が予算編成で果たすべき 10 の役割

早稲田大学マニフェスト研究所研修「予算書ではわからない予算のツボ」に基づき、議員が予算編成で担うべき役割について学んだ。

1. 予算の目的と役割の理解

予算は政策実現の要であり、自治体財政運営の根幹計画である。議員は予算編成を通じ、地域課題解決と将来像実現へ向け、行政と連携し市民の声を行政へ反映する役割を担う。

2. 財政状況の把握と分析

議員活動の基盤は正確な財政状況の理解である。

収入構造、支出項目、将来見通しを分析し、財政の健全性を評価する。

人口減少や高齢化に伴う社会保障費増、公共施設老朽化対策等の共通課題の影響把握は重要である。

3. 政策評価と予算配分の精査

予算配分は政策優先順位と効果効率に基づき精査されるべきである。

- **政策目的・目標** 明確性、総合計画・政策推進プランとの整合性
- **成果指標** 具体性、測定可能性
- **ロジックモデル** 妥当性、因果関係の論理的説明
- **費用対効果** 成果に見合う妥当な費用
- **進捗状況** 目標達成に向けた適切な進捗
- **評価方法** 客観性、妥当性
- **改善策** 評価結果に基づく検討

4. 行政との連携と対話

行政と議員の連携は予算編成に不可欠である。

対話を通じ政策意図や課題を共有し、予算編成における課題解決へ協働する。

特に財政課との連携は重要であり、財政状況や予算編成ルールへの理解を深める。

5. 市民への説明責任

予算は市民の税金で賄われる。議員は予算編成プロセスと内容を市民へ説明する責任を負う。情報公開を進め、市民の意見を反映する仕組みの構築が求められる。

6. 政策立案能力の向上

議員には高い政策立案能力が不可欠である。ロジックモデルやエビデンスに基づく政策立案手法を習得し、政策の必要性和効果を論理的に説明できる能力が求められる。

7. 多様な関係者との連携

まちづくりは多様な関係者との連携で推進される。議員は地域課題解決に向け、企業、NPO、大学等との連携を促進し、共創のまちづくりを推進する役割を担う。

8. リーダーシップの発揮

議員は地域課題解決と将来像実現に向け、リーダーシップを発揮し地域を牽引する。対話重視の姿勢で関係者との対話を促進し、合意形成を図りながらまちづくりを進める。

9. 自己研鑽の継続

社会情勢と行政課題は常に変化する。議員は自己研鑽を継続し、最新知識・情報を習得する必要がある。研修で得た知識を基に政策立案能力と財政知識を向上させ、議員の役割を効果的に果たす。

10. 倫理観の保持

議員は市民の負託を受けた公職者として高い倫理観を保持し、公正誠実に職務を遂行する。倫理観向上と市民信頼に応える行動が重要となる。

【考察】

早稲田大学マニフェスト研究所の研修を通じて、予算編成における議員の役割は、単に予算書を精査するだけでなく、政策実現の目的と役割を深く理解し、正確な財政状況を把握分析した上で、政策評価と予算配分の精査を行い、行政との連携と対話を通じて市民の声を反映させることであることを改めて認識しました。今後は、これらの役割を意識し、市民の期待に応える予算編成に貢献していきます。